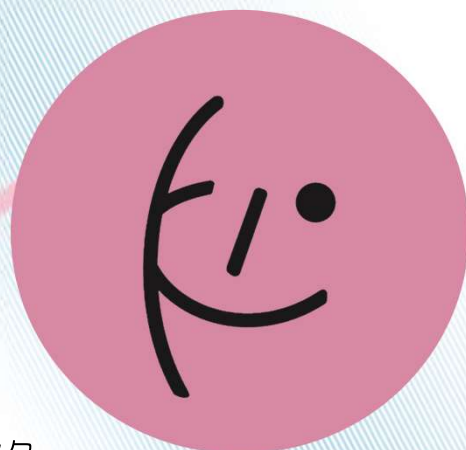


かながわ精神科病院訪問記 VOL : 1  
(2023年度)

# いって・みて・きいてきた

～精神科病院を見学してきた～

(さいしょの一步)





# 目次

## ■はじめに

堀合悠一郎

## ■病院訪問

No.	病院名	訪問日
①	あさひの丘病院 (医療法人誠心会)	2023年6月2日
②	横浜日野病院 (医療法人徳洲会)	2023年7月13日
③	聖マリアンナ医科大学病院 (学校法人聖マリアンナ医科大学)	2023年7月31日
④	横浜ほうゆう病院 (特定医療法人社団鵬友会)	2023年9月14日
⑤	江田記念病院 (医療法人社団明芳会)	2023年11月28日
⑥	富士見台病院 (医療法人社団清風会)	2023年12月4日
参考	新生会病院 (医療法人和気会)	2023年12月13日 2024年2月17日

見学をお受けいただいた6つの病院と大阪にある新生会病院の訪問記録をまとめました。

新生会病院の和気隆三先生には、KPの活動の応援団長のようにご支援をいただき、病院訪問についてもご協力いただきました。

## ■座談会

～6つの病院訪問を終えて～ みんなでかんがえてみた。

## ■おわりに

～事務局より～ 寄付のご案内、ボランティア募集





## 【はじめに】

KP神奈川精神医療人権センター（以下KP）の立ち上げのきっかけを作った精神障害当事者グループであるYPS横浜ピアスタッフ協会（以下YPS）で行っていたピア活動の魅力の一つは、皆でともに元気を分かち合えることでした。お祭りなどのイベントはもちろん、あるいはシリアスな勉強会を企画する時でさえも、一番に意識していたのは「楽しさ」だったと思います。

でも、その「楽しさ」や「元気」は、参加するには会場まで出かける必要があるイベント形式では、精神科病院に現に入院中の人たちに届けることはできない…一番元気を届けたかったのは、長期入院でつらい思いをしている当事者の仲間なのに…と葛藤も感じていました。

そんな中、2019年の夏に大阪精神医療人権センターを見学する機会があり、「精神医療人権センターなら、きっとそれができる！」と、皆で気付きます。その発見の熱気と勢いで2020年5月に立ち上げたKPも、もうすぐ4周年を迎えます。

KPは、立ち上げ前から、YPSの活動として精神科病院の見学、病院内に入っのピア活動、そして退院促進をテーマとした勉強会（YTU 横浜退院促進ユニオン）等、精神科医療にアプローチを試みるイベントを行ってきた経緯があります。よりよい精神科医療の実現のためになにをすべきか手探りで模索する中、初期の活動としては、「とにかく、市民（ピア・家族・研究者・市民としての専門職..）の視点で病院に近づき、病院を知ることが必要だ」との考えから生まれた企画「横浜市内の精神科病院すべてを1日で回るといふバスツアー」を2020年夏に実施するなど、精神科医療にどうアプローチするか、試行錯誤を重ねてきました。

KP立ち上げから3年ほどは、コロナ禍のため訪問活動に様々な制約があり、苦しい時期が続きました。2023年4月、病院訪問及び身体合併症への対応をインタビューするためのアンケートを実施しました。有床精神科のある県内70病院へアンケートを発送したところ、17病院から回答をいただき、そのうちの7病院から見学対応可のご返答が得られ、今年度6病院へ見学訪問を実施することが出来ました。

そうした背景があり、今回、この冊子を皆様にお届けできることは、KPの活動の一つの大切な印として、未来につながるものだと考えています。是非、多くの方にご覧いただき、KPの活動について知っていただけたらうれしく思います。ご協力くださった病院関係者の皆様、入院されている患者さんご家族にこの場をお借りして、御礼申し上げます。

堀合悠一郎

### 【この冊子の見かた】

- ・神奈川県内の精神科病院の概要は、神奈川精神医療人権センターのホームページで公開しております。ぜひ合わせてご覧ください。
- ・この訪問記は、KPの事務局とボランティアが訪問したその日その時点の報告になっております。情報(差額ベッド代)などが更新されている場合もあります。ご了承ください。



## 【①あさひの丘病院】

### 【基本情報】

医療法人誠心会 あさひの丘病院  
〒241-0803  
神奈川県横浜市旭区川井本町128-1  
電話:045(951)5600

### 【アクセス】

相鉄線「三ツ境」駅北口の1番バス乗り場から  
乗車し15分程度で「東根(ひがしね)」で下車、  
徒歩3分。  
駐車場もあり。



### 【病棟】

病棟は5つ。精神科救急入院料の病棟や療養病棟、精神一般など5つの病棟それぞれに違う機能がある。病棟は外から土足で入棟できるが、絨毯敷きで清潔感があった。共用部分のトイレなども清潔に保たれ、匂いの気になるところはなかった。廊下やホールなどの共有スペースは十分に空間が保たれていた。

ナースステーションは中央に位置している。給茶機や自動販売機などが自由に利用できる。各フロアに作業療法室やカウンセリング室など、さまざまな用途の個室が用意されており、個別性の高いプログラムや面談が実施できる。どの病棟も静穏な様子だった。

### 【病室】

個室、多床室(4人部屋)どちらもスペースが保たれ、多床室はカーテンも設置されていた。一人ずつ木製の床頭台が用意され、鍵付きで貴重品を管理できた。窓は大きく、明るい印象だった。すべての部屋にナースコールが設置されていた。プライバシーに配慮し、部屋の前の名札は隠せる様式になっていた。

### 【保護室】

急性期タイプ、観察室タイプ、療養病棟タイプと3種類の保護室の様式を見学した。特にスーパー救急の保護室エリアはユニット式となっており、ユニット内にデイルーム(給茶機やベンチデスクスペース)が設置されている。個室ごとの観察用の覗き窓は、ロールカーテンでクローズすることもできる仕様。

トイレの仕様もそれぞれで、急性期タイプはパーテーションがないが、他の保護室はトイレに仕切りがありカメラからも映らない配慮がされていた。ソフトな素材の床で、窓は大きく鉄格子などはなかった。カメラモニターは天井埋め込み式で目立たない。天井が高く設計されていて、全ての保護室内から、時計とカレンダーが見える位置に設置されていた。





## 【治療について】

単剤率が高く、処方も非鎮静系の薬剤を極力選択している。mECT(修正型電気痙攣療法)やクロザピン治療も行っている。内科は非常勤のため、身体合併症の急性期治療などが必要な場合は、県の合併症救急ルートや総合病院と連携している。

## 【公衆電話】

各フロアに個室タイプ(扉付き)の電話室が設置されている。携帯電話使用者も多く、通話エリアも設置されていた。電話室には、退院請求・処遇改善請求等の窓口である各精神保健福祉センターの電話番号や、人権相談窓口として法務局の連絡先も掲示されていた。電話の横にご意見箱も設置されていた。



## 【郵便】

郵便はフロアごとにナースステーションで預かり、「メッセンジャー」という役割の職員が毎日回収して集約し郵便局が集荷する仕組み。患者宛の郵便物も患者へ配布される。

## 【ご意見箱】

公衆電話横以外にもご意見箱と用紙は設置されている。フロアの数か所、作業療法室にも設置されていた。月1度回収され患者へフィードバックされている。

## 【面会室】

面会室は各病棟内の入口近くに設置されていた。ソファーやテーブルがあり、感染対策のためのパーティションが設置。コロナ前はホールや病室(個室)での面会も可能だった。コロナ禍も、一時を除いては面会時間を15分程度に限定し、面会は通常通り実施していた。





## 【作業療法】

作業療法室は広い部屋が3室、各病棟にグループワーク用の個室があったが、現在は感染対策のため病棟ホールのみで行っている。各病棟で運動、作業、心理教育など実施されていた。退院支援のプログラムなども、多職種協働で病棟ごとに実施されている。

## 【外来】

一日平均60～70名。診察室が6か所あり、待合室に順番案内用のモニターなど設置。窓口も声をかけやすいようオープンカウンター。外来看護師常駐のカウンターもあり相談ができる。デイケアは隣接している同法人の神奈川病院で実施している。

## 【医療相談室】

精神保健福祉士が11名在籍している。

## 【家族会】

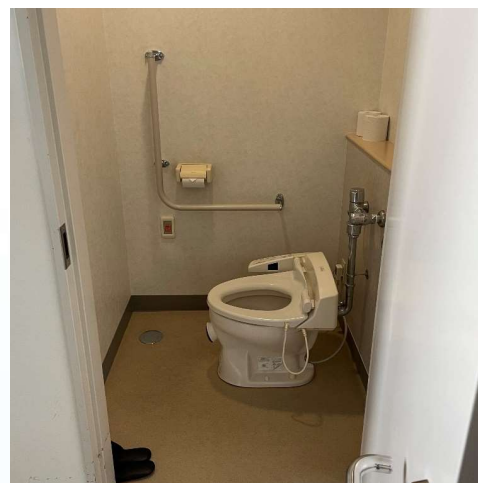
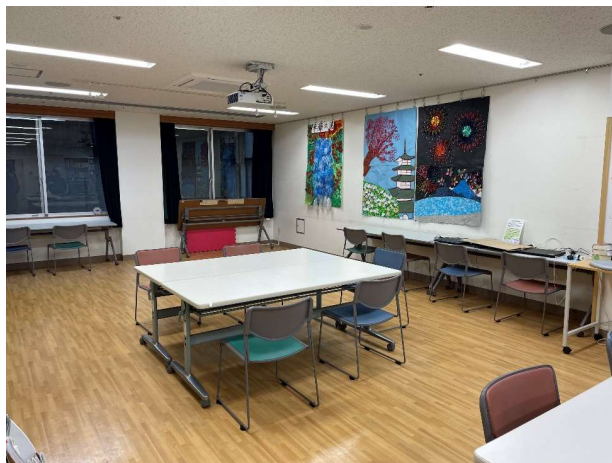
多職種による運営委員会により運営されている。年4回開催され、講義とグループワークのセット形式で実施。

## 【行動制限最小化の取り組み】

毎日病棟ごとに行動制限最小化のカンファが実施されている。内容は多職種で共有され、また月1回院内の行動制限最小化委員会開催される。

## 【その他】

- ◇病衣やタオルを一律に貸し出す制度で1日550円(税込み)
- ◇患者さんの多くは病衣を着て過ごしていた。
- ◇売店は祝日以外は営業。外来にある。
- ◇小遣い管理はほとんど実施されず、個人で扱える範囲の金額を自己管理をしている。
- ◇洗濯についてはコインランドリー(洗濯機・乾燥機:30分毎50円)、業者委託、家族持ち帰りがある。
- ◇入浴は入浴室(曜日によって男女分けている)とシャワー室(予約制)
- ◇wifiはない。(自身のスマホは基本的に使用可能)





## 【あさひの丘病院】

6月某日、雨が降りしきる中でKPメンバー合計5名が訪問をしました。当日は多職種のスタッフ複数名が対応して下さり全ての病棟を見学させて頂きました。

実際に見学をして隅々まで清掃が行き届いて綺麗だったこと、プライバシーが保たれた場所に公衆電話が設置されていて許可制で携帯電話の使用も可能だったこと、病棟の個室率が高く多床室であっても4床までであったことなどが印象的でした。

また保護室内から見える位置に時計とカレンダーを配置して時間感覚を失わせないようにしていること、治療薬の単剤化率が高いこと（急性期では8割、病院全体では5～6割）に加えて、治療薬の副作用に関する掲示があり患者さんからスタッフへの積極的な相談を促していること、行動制限最小化のための積極的な取り組み（多職種でのカンファレンス）をしていることなどの工夫を感じました。

気になった点としては、精神科スーパー救急病棟がある関係で緊急入院に至るケースが多いことと関係しているのか、空きベッドやストレッチャーに抑制帯を前もって準備している光景が目立ちました。身体拘束に至るケースが複数あることが推測されるので、これをゼロに向けて減らしてもらえよう、今後に期待したいところです。

要望としては、病院の建物全体がコンクリート造りで綺麗だからこそ、入院している患者さんに無機質な印象を与えないよう、スタッフの皆さんには温かみのある対応を心がけて欲しいです。人員も不足気味で多忙な中で色々大変かと思いますが、入院生活を送る上で実際に接したスタッフの方々とやり取りは非常に重要な意味を持つと考えています。

私自身も現在は電話ボランティアに不定期で入らせて頂いております。電話を通じてのコミュニケーションは苦勞も多いのですがやりがいも感じております。これからも誠実に相談電話に向き合いながら、無理のない範囲で継続していきたいです。

（島田重徳）

## 【②横浜日野病院】

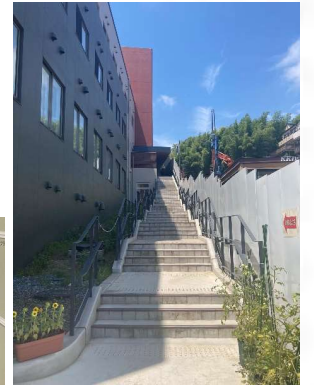
### 【基本情報】

医療法人徳洲会 横浜日野病院  
〒234-0051 神奈川県横浜市港南区日野3-9-3  
電話:045-843-8511

### 【アクセス】

横浜市市営地下鉄ブルーライン「上永谷駅」より徒歩13分  
又はバスの場合  
京浜急行「上大岡駅」または市営地下鉄「上永谷駅」より  
「下車ヶ谷(かしゃげと)」バス停で下車、徒歩1分  
駐車場もあり

訪問当日は、馬場院長（写真右）と相談室の佐藤さんに案内していただきました。  
お忙しいところありがとうございました。



### 【病棟】

建物は2023年に新築された。新しくなった病棟は、広さも明るさも十分と思われる。病棟中央部に食堂が設けられており、食堂に面して公衆電話が設置されている。食堂には、洗面とミニキッチンが設けられている。病棟ごとにテーマカラーが定められている。

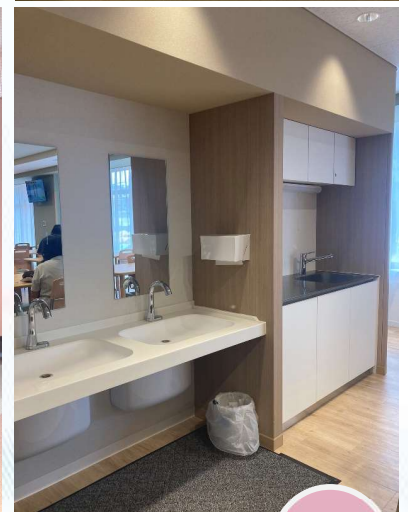
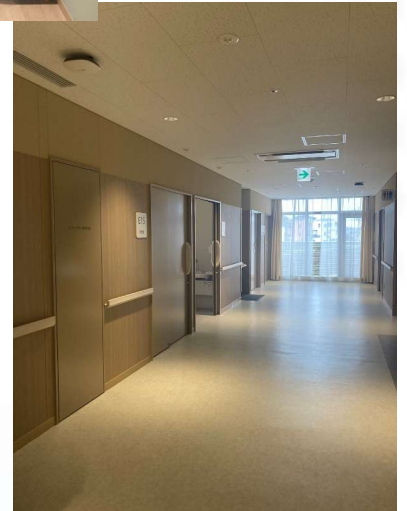
ナースステーションは、病棟のほぼ中央に位置しており、腰から上はガラスで閉じられており、入口には扉が設置されている。

### 【病室】

4人部屋が基本。個室は2種類。差額ベッド代が3,300円の手洗い付きの部屋と、差額ベッド代が5,500円の洗面台・トイレ付きの部屋。

ナースコールはない。

※これから患者さんを迎えるベッドには「一日も早く退院できますように」とメッセージカードが置かれていた。スタッフの方の優しい雰囲気が伝わってきた。



ベッドに置かれた  
メッセージカード

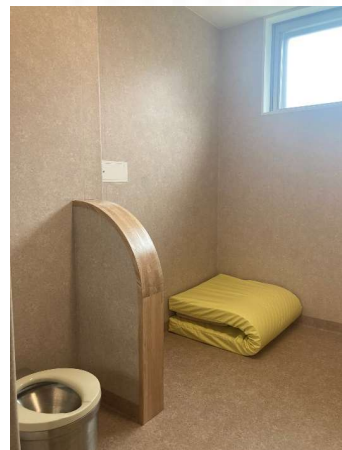




## 【保護室】

窓は壁の上部に型ガラスのフィックス窓がある。明るさは十分だが、外は見えない。天井に監視カメラ設置。(トイレも見えてしまう)。空調あり。トイレは洋式、トイレットペーパーと手洗いは外からも管理できるタイプ。ナースコールはない。ナースステーション内にあるモニターで看護師がチェックしている。

保護室は2種類あった。ご本人が「保護室に入りたい」と希望する場合もあるとのこと。(その場合は保護処遇としてではなく、個室として使用する)



## 【浴室】

病棟に浴室、シャワー室がある。原則、週2回の入浴で午前中とのこと。(ただし少しだけ希望は聞いてもらえる様子でした。)皮膚に疾患のある人などは毎日シャワーが使用できるなど柔軟な対応をされているとのこと。

浴室は、脱衣室の奥に、浴室があり2つの浴槽と2つの洗い場で構成されていた。(2つ浴槽があるが、同時に使用することはないとのことだった。)

また、シャワーブースもあった。



## 【公衆電話】

各病棟に1台設置されていた。ナースステーションのすぐ横、食堂に面していて、パーテーションなどは設けられていない。(電話の話し声が周りの人に聞かれてしまう状態なのが気になった。)

電話は、テレホンカードは使えず、コインを使用する。(NTTがテレホンカードが使用できる機種の製造を中止し、やむなくコインタイプになってしまったとのこと。)

電話をかけたいと申し出ると、看護師から10円玉が渡される。(電話をかける相手も伝えるようになっているとのこと。)

主治医の許可により、個人の携帯電話の使用が認められている人もいるとのこと。



## 【面会室】

各病棟に1部屋ある。面会者はエレベーターホールから、患者さんは廊下から直接入ることができる。

4人掛けのテーブルで、テーブル上に内線電話が置かれている。

主治医の判断により、受付ホールなどで面会も認められている。

窓がなく、少し殺風景な印象もある。





## 【外来について】

6人の医師により、月曜から土曜まで外来が行われている。  
薬は、院内処方。

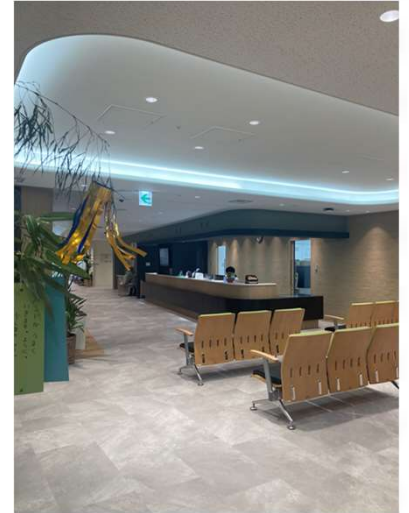
## 【売店について】

受付階に売店が設けられている。  
外出を許可されている人はすぐ近くにあるコンビニを利用して  
いる様子。  
ただ、売店の利用も制限されている方もいるようで、その場合  
の対応が気になる場所でした。



## 【ご意見箱】

各病棟の公衆電話横にご意見投書箱が設置されている。  
回答は、ホール壁面に掲示されている。



## 【作業療法室】

十分な広さ。ルーフバルコニーもあるがまだ活用はされていないとのこと、今後に期待できる。タブレットもある。

## 【デイケア室】

訪問の数日後には敷地内の竹林で切った竹を使い、流しそうめんをすること。カラオケの設備があり、訪問当日も楽しそうな歌声が聞こえてきた。

## 【郵便について】

各病棟に振り分け、病棟看護師から本人に渡される。小包以外はそのまま中身は確認せず渡される。

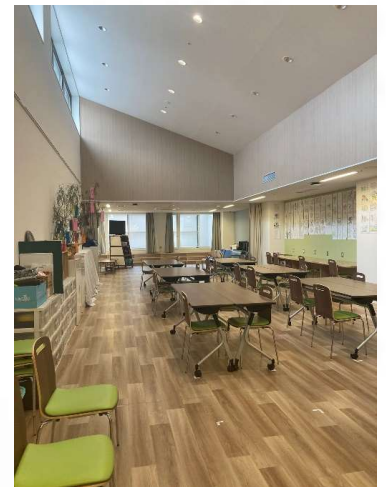
## 【行動制限最小化の取り組み】

毎月委員会を行っている。新病院になってから、隔離の平均日数は20日以内におさまっている。(20日でも短縮されたと評価している様子だった。)

虐待があったら、内部ではなく外部にすぐに通報するようにと伝えているとのこと。

## 【そのほか】

- ◇授乳室が設けられている
- ◇X(旧ツイッター)やインスタグラムで病院の情報が投稿されている



## 【横浜日野病院】

今回、馬場院長、医療相談室の佐藤様がお忙しい中、見学対応して頂きました。院長から患者さんには、なるべく日中の活動を促しているとのことでした。理由は夜が眠れなくなるから！だそうでもとても大事な事だと痛感しました。ロビーでは院長を見かけると患者さんたちが声をかけてきて楽しく会話している光景は良い関係性を感じました。

フロアーには電話があるが置いてあるだけで仕切りがなくプライバシーへの配慮が必要だと感じました。

窓が多く採光は出来ていますが開放感は感じにくかったです。部屋によっては2重窓の間にカーテンがあり外の様子が全く分かりませんでした。季節感もわからないので質問すると安全性と周りからのクレームもありこの状況は仕方がないとの事でした。

お風呂は浴槽が小さく足が伸ばせないサイズで、浴槽が2つあるのも気になりましたが、2人一緒に入ることはないとお話がありました。入浴は週2回と決められ自由には入れないとの事でしたが今年は猛暑でクーラーの中での生活ですが厳しい状況かと感じました。

保護室を初めて見学しました。トイレとベッドしかなく、あかりとりはありました。鉄の重い扉に窓がついていて、扉の内側にはいくつもの傷がありました。声を出しても外には聞こえずモニター画面でナースステーションの中で管理しているそうです。保護室では2週間ぐらいいることで体調が落ちつくと言っていました。保護室を治療の一環として考えるのか？私も考えると答えが出てきませんでした。

一般の人が病院内の見学をする事がコロナの影響もあり出来ないのが現状だと思いますが、これからも治療などにご迷惑かからない範囲で支援者、事業所などに見学をさせていただければ幸いです。

今回見学させて頂き、新しい病院で明るく色々工夫をされていると思いました。個人的には自分が入院したい病院は外の空気が吸えて、空が見え風の音が聞こえ、季節を感じられて緑、花が見える心を自然が癒してくれるような環境があればと思います。馬場院長も「自分が入院したくなる病院を目指す」と心強いお言葉を頂きうれしかったです。

今回日野病院を見学させて頂き、初めての経験で色々勉強になりました。ありがとうございました。  
(島中祐子)

人里離れた山の中などに建っていることも多い精神科病院の中にあって、横浜日野病院は大きなマンションや建ち並び戸建て住宅、それに交通量の多い環状2号線などに囲まれた地域にある。建て替え工事を進めてきて、2023年の2月に新館がオープンしたばかり。だから当然と言えば当然だが、清潔で機能性も高いように見受けられた。ただ、立地上の制約によるものと思われるが、広々感や開放感にはやや欠けるように感じられた。隔離室や面会室から外の景色が余り見えず、患者さんが閉塞感を感じるのではないかと気になった。すぐ脇に大きなマンションがそそり立っていて、患者さんが時折出す大声に苦情が出ることもあるということだ。そのため二重にしてある窓も多く、それが開放感に欠ける一因にもなっている。近隣住民との意思疎通についてはご苦労も多いことと思った。

施設面で気づいたことで、公衆電話がテレホンカードではなく十円玉でしかかけられない型式で、これではさぞかけにくいだろうと思ったが、携帯電話の普及で、公衆電話が大幅に減ったため、NTTではカード式電話機をもはや作っていないそうだ。電話は閉鎖病棟の患者さんと外界を結ぶ最重要ツールなので、全国の精神科病院からカード式電話機が消えたらと思うとゾッとする。

隔離・拘束を減らすための行動制限最小化委員会について説明をいただいたが、隔離・拘束されている患者さんの個々の状況を院長はじめスタッフの皆さんが共有しているようで、その効果を期待したいと思った。

なお、多くの精神科病院も同じだが、日野病院もホームページの情報量があまりに少な過ぎる。院長先生がおっしゃる「私自身が入院したい病院」かどうか、初めての人でも検討できるだけの情報量を提供していただきたいと思った。

(稲川 洋)



## 【③聖マリアンナ医科大学病院】

### 【基本情報】

聖マリアンナ医科大学病院

〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生 2-16-1

電話:044-977-8111

### 【アクセス】

小田急線 向ヶ丘遊園駅など、東急田園都市線 宮前平駅など、

JR南武線 武蔵溝ノ口駅からバス。20分から40分程度。

鉄道駅からは遠いが、バス便は充実している。

### 【病棟】

2023年に新しい病棟となり、清潔感があり、かなりゆったりとしたつくりになっている。室内は壁紙や床の色が明るく落ち着いた色でまとめられている。精神科は31床あり、開放病棟と閉鎖病棟と小児エリアに分けられている。

小児エリアは壁に『いわさきちひろ』さんから寄贈された絵が3枚飾ってあったり、入り口や壁に絵が描いてあったり、やわらかな印象があり工夫されていると感じた。

開放病棟のナースステーションはガラスの仕切りなし、閉鎖病棟はガラスの仕切りがあるが、内部はよく見える。

セル看護方式を取り入れられていて、廊下には必要な物品やパソコンを載せたキャスター付きカートで看護師さんが作業されている。患者さんの近くにいつもいることで病状の変化にいち早く気が付くことができるとのこと。

### 【病室】

病室は、他の科と基本同じ考え方で設えられているとのこと。4床の基本の部屋と個室がある。個室には4.5帖くらいのスペースに、ベッド、ソファ、棚、トイレとシャワーがついている。差額ベッド代は19,800円/日で、金額も他の科と同じ設定となっている。

小児エリアには2人部屋があり、差額ベッド代5,500円/日とのこと。

明るく、清潔感のある病室で、壁紙、床の色は落ち着いたベージュでまとめられている。

### 【保護室】

保護室は3室ある。窓は曇りガラス、上部15cmくらいの部分は透明ガラスだったが、隣の病棟から中が見えてしまうことが分かり、目隠しのシートが貼られているため、空は見ることができない。

ステンレスの洋式トイレが1つ、部屋の角にある。居室との簡単な仕切りあり。食事提供の際は、基本的には手渡し、状態が悪い時は小窓から提供。部屋奥上部角に、監視カメラ1台あり。

部屋の外の壁には、怪我防止のためのクッション材がビッシリ貼ってある。部屋の中の床材もクッション性あり、怪我防止が考えられている。

### 【トイレ】

廊下に面して、トイレが設置されており、個室には個室にトイレが設置されている。

### 【浴室】

開放病棟、閉鎖病棟にそれぞれシャワーが設けられている。閉鎖病棟には、介助浴用の浴室があるとのこと。シャワーは、予約制で毎日入ることができる。



## 【面会室について】

開放病棟に『デイルーム』があり、面会としても利用できる。景色がよく明るい部屋、窓は10cm程開けられる。窓側に細長いテーブル3台、椅子6個。部屋真ん中に楕円形のテーブル2台、椅子5台ずつ置かれている。

ピアノやギター、マンガが置いてある。家族との面談や患者同士が話したり場所になっているとのこと。私たちが訪問した際は、どなたも利用されていなかった。

## 【公衆電話】

閉鎖病棟に1台、廊下突き当たりに設置されている。夕日がきれいな西側にある。

開放病棟では個人の携帯使用が認められているため、公衆電話の設置はない。

## 【作業療法室】

神経精神科病棟にはない。医師や看護師が個別対応しているとのこと。そのため面談室が用意され利用されているとのこと

## 【行動制限最小化への取り組みについて】

セル看護式を取っているので、いつも患者の近くにいて見守ることができるため、身体拘束は少ないとのこと。ただし電気治療(ECT)の後など、興奮気味で安全上危険と思われる際などに、身体拘束をすることがあるとのこと。

医師と看護師がお互いに相談し合える風通しの良い関係性のため、無意味な治療や身体拘束はないとのこと。

## 【郵便について】

基本的には手紙が来たら、開けずにお渡しする。宅配物は中身を確認してからお渡しするが、できるだけ宅配してもらわないようにしている。

## 【ご意見・苦情などについて】

掲示板上にも案内あり。開放病棟はデイルームや廊下に、閉鎖病棟は公衆電話横に投書箱が設置されていた。

## 【そのほか】

◇掲示物は病院内全て同じ情報を掲示している。シスターや神父との面談や訪問も依頼可能の案内もあり。

◇総合病院であり、透析など合併症患者の受け入れが可能である。また、rTMS治療やクロザピン処方もおこなっているとのこと。

◇ひな祭り、七夕、クリスマスなどのイベントあり。クリスマスには医師がサンタクロースに扮したりしているクリスマス会が行われるとのこと。

## 【聖マリアンナ医科大学病院】

1974年に開院した病院だが、今回、2023年に開院した新病棟を見学させて頂いた。神経精神科外来受診は旧病棟だが、入院病棟は新病棟8階にあり、病床数31とこじんまりしていて、きれいで落ち着いた雰囲気だった。

看護師がいつも患者の近くにいる『セル看護式』なので、安心感があって良いと思った。また、クリスチャンの大学病院のため、神父やシスターとの面談を依頼できるのも良いと思った。

見学案内は、医師と看護師長が対応して下さった。『rTMS』（反復経頭蓋磁気刺激）という療法があり、治療機器を見せて頂いたが、鬱病、統合失調症、最近では発達障害がいにも効果があるとのことだった。またこちらの病院では『クロザリル』の処方もしている。

数年前に指定医の不正申請問題が発覚したが、今ではチェック体制をかなり厳しくしているのだから、再発防止ができていようだ。

また、医師と看護師が普段から意見交換をし、風通しの良い関係性ができている、とのお話から、他の精神科病院でもこのような関係性が構築できれば、日本の精神科医療ももっとよくなるのに、と強く感じた。  
(渡部真理子)

訪問当日は、戸邊先生と師長さんに案内をいただきました。師長さんが発せられた「（精神科は）たのしい」との言葉を聞き、とても驚いたとともに、すてきなことだなと感じました。また、お医者さんと看護師さんの垣根がなく（すくなく）とてもよいコミュニケーションがとれているとお話もありました。

精神科病院は、入院が長引く（退院がなかなか進まない）という現状があることについては、病院だけの問題ではなく、「ちいきの力」が必要なのではとの言葉をいただきました。これからのKPの活動の方向性をいただいた気持ちになりました。  
(矢ヶ崎洋恵)

聖マリアンナ医大病院は、総合病院であるだけに、身体の疾患との合併症の患者も多いということで、合併症の患者を囲い込んだ滝山病院での事件を見るにつけ、こうした総合病院の中の精神科病棟は拡充されるべきなのではないかと思う。

病院としては当初、精神科のベッドの半分程度を開放病棟にする予定だったところ、開放病棟の需要が少ないため、全てを閉鎖病棟にせざるを得なかったとのこと。本来なら開放病棟に相当する患者さんについては「準開放病棟」という扱いにして、要請に応じてその都度カギを開けて病棟の外に出られるようにしている。神奈川県では精神科の入院患者のうち3分の2程度が医療保護入院で占められ、強制入院の患者比率の高さがこうした苦肉の策を産んでいるとも言えそうだ。

聖マリアンナ医大というと、2015年に発覚した精神保健指定医の資格の不正取得事件が思い出されるが、そうした不正防止のために、今は資格取得の際の指導医によるチェック体制を二重にするなどの対策を講じているとのことだった。

ここの精神科の病棟で特徴的なのは、「セル看護」と言って看護師がナースステーションにはおらず、各病室、または病室前の廊下に移動式の机やパソコンを置いて事務仕事などの業務を行っていることだ。こうすることで患者のニーズや病状の変化にも即応でき、転倒などの事故防止の効果もあり、患者の安全確保のためとして行われる身体拘束の削減にも繋がるということだ。

ここからは話がやや飛躍するが、このように医療側が患者に近づけば、それだけ医療業務も効果的になるというのなら、いっそのこと病室を突き抜けて患者の住む地域にまで飛び出して行った方がよいのではないかと思えてくる。実際、精神科のベッド数を大幅に削減して地域での医療に重心を移したヨーロッパなどの国々では、こうした効果が現れているとも聞く。立派に新装なった精神科の病棟を見ると、綺麗で、機能的で、患者の居心地も良くなったとは思いますが、日本の精神科医療の後進性の象徴である収容型施設のために、これほどの人的、資金的資源を注ぎ込むことが果たしていいことなのか、という疑問も湧いてくる。

(稲川 洋)





## 【④横浜ほうゆう病院】

### 【基本情報】

特定医療法人社団鵬友会横浜ほうゆう病院  
〒241-0812 神奈川県横浜市旭区金が谷644-1  
電話:045-360-8787  
認知症疾患専門病院

### 【アクセス】

(電車) 相模鉄道本線「三ツ境駅」から  
「横浜ほうゆう病院」まで 徒歩18分  
(バス) 旭21「金ヶ谷バス停」から  
「横浜ほうゆう病院」まで 徒歩1分  
(車) 東名高速道路「横浜町田IC」から  
「横浜ほうゆう病院」まで 4.1km



### 【病棟】

3階建てで、各階に東棟と西棟がある。廊下・病室・ホール(多目的に使う広い部屋)などの部屋がある。圧迫感を感じない。天井が十分な高さがあり、窓から明かりが入る。特に3階ホールは見晴らしがよく開放感を感じる。ナースステーションはホール内に設置され、ガラス張りで外から見やすい。

### 【病室】

大きめで、2～4床のベッドが入る広さ。小机が置いてある場合が多い。カーテンがあるベッドとないベッドがある(観察が必要な場合カーテンをつけない)。見学時1階は光が入りづらい印象だったが、その後眺めを遮っていた樹木の伐採が行われたため1階も明るくなっているとのこと、3階は明るい。見学した様子では、圧迫感を感じない。



### 【保護室】

保護室は全体で2室ある。マットの部屋とベッドの部屋。(患者さんに応じてマットだったり、ベッドだったりすること)窓で通路とつながっており、職員が様子を見に来られるようになっている。窓越しにカメラも設置されている。設置されているトイレは和式のため、使えない人はポータブルトイレを設置する。部屋は明るく、匂いはない。

1度保護室に入ると2～4週間処遇することが多い。昼間は他の人とのプログラムに参加するなどしてだんだんと通常病床で生活できるようにしていく。入院時に、保護室が必要か確認し、空いていない場合入院を断る場合もある。

### 【浴室】

各階に1か所。浴室内に介助浴用浴槽が1つ、一般浴用浴槽が2ある。週2回、入浴の時間がある。

### 【公衆電話】

各病棟に1つ、外来に1つ設置されている。小銭を入れて使うタイプで、電話をしたい時は職員が預かっているお金を渡すとのこと。24時間電話可能。

電話は個室で分けられているわけではないが、部屋の隅にあり、プライバシーは保たれる印象でした。



## 【面会室】

入院中の患者さんが面会する場所は、3階の東棟と西棟の接続部分にある。個室ではなく、面会スペースという形。広さは十分で採光も良く落ち着いて話せそう。人の通りがある場所なので、面会に来た人も病棟の様子がわかる。反対に言えば、面会の様子が通行人からもわかる。そのため、面会の時間は、ほかの家族がバッティングしないようにしており、基本は1階で待っていただき、一組降りてきたら次の家族が上がるようにしている。

見学時(2023年11月)はコロナ対応が緩み、1日に6組面会できる。コロナ前は面会の制限時間もなく、24時間面会できたが、現在は1組10～20分としている。



## 【外来について】

診察室は5部屋あり、待合室にモニターがついている。訪問時はテレビ番組を流していた。今後は認知症に関する啓発ビデオを流したいと考えているとのこと。音楽も流されていた。絵本などもある。資料やお知らせがたくさん掲示してあった。若年性認知症についても積極的に情報提供している様子が見られた。

外来は通常午前だが、医師や患者の都合で午後になることもある。初診は通常午前中いっぱいかけて面談やインタビューその他の作業をして午後方針などを話し合う。急患の対応はあるが、基本的には予約制で行っている。

## 【売店】

外来の待合室に小さな売店がある。お菓子や雑誌等を販売している。

## 【ご意見箱】

意見を投函できる箱が各棟に設置され、週1回チェックしている。業務改善委員会等、関連部署が審議して病院として回答している。プライバシーが守られる場合のみ、回答を公開しているとのこと。

## 【作業療法室】

ホールを作業療法室として使っている。3階のホールは窓もたくさんあり、とても開放的。作業療法は毎日行われている。作業療法に参加しない患者さんは作業療法中でもホールで好きなことをしてよい。テレビとピアノがある。



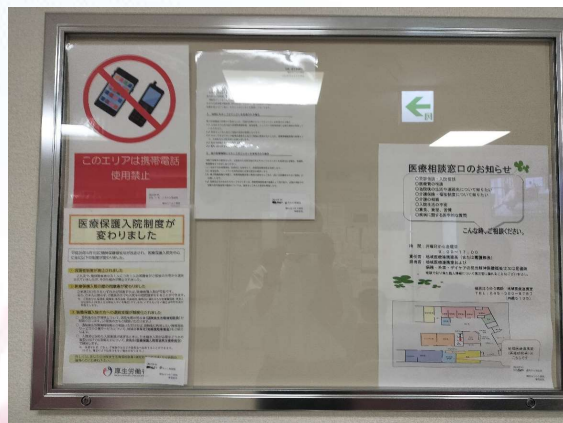
## 【デイケア室】

デイケア室は用意されているが、時間の都合で見学ができなかった。

## 【その他】

◇季節行事を大切にしている。作業療法士が中心となり、クリスマスや正月、七夕など季節の催し物を行っている。

◇地域住人にむけて、認知症、若年性認知症の普及啓発を積極的に行っている。認知症のご本人、ご家族に向けて伝えたいメッセージがたくさんあるとのこと。



## 【横浜ほうゆう病院】

全体として柔らかい雰囲気です。居心地が良いと感じました。3階ホールは採光が良く見晴らしも良いので開放感を感じることができます。スタッフの表情も柔らかく、入院している患者さんも緊張しているようには見えませんでした。

3階にある面会スペースに工夫を感じました。個室ではないものの人通りは少なそうなので、周囲のことを気にせずに話しができるのではないかと思います。イスはしっかりとしたソファなので、簡易なイスや事務用のイスよりも気持ちを落ち着けて話しができるでしょう。

電話も個室ではないのですが、ホールの人があまり来ないスペースに設置されていて、イスもあるのでプライバシーを守りながら、落ち着いて話しができるのではないかと思います。

地域連携室には、入退院その他のさまざまな相談事に対応するために、ソーシャルワーカーだけでなく看護師や心理職がいるというお話が印象的でした。

外来のことになりますが、啓発活動のパンフレットが多数あり、とくに若年性認知症の啓発活動に力を入れているようでした。また、今後は据え付けられたテレビを使った啓発活動も行っていきたいとのことでした。

対応していただいた村山さんは、ほうゆう病院で働いたあとに大学の教員となり、またほうゆう病院に戻られたそうです。知識と経験に加えて情熱がある方が、自信をもって病院の環境整備に取り組まれている印象を持ちました。

(三輪明広)



## 【⑤江田記念病院】

### 【基本情報】

医療法人社団明芳会 江田記念病院

〒225-0012

神奈川県横浜市青葉区あざみ野南1丁目1番地

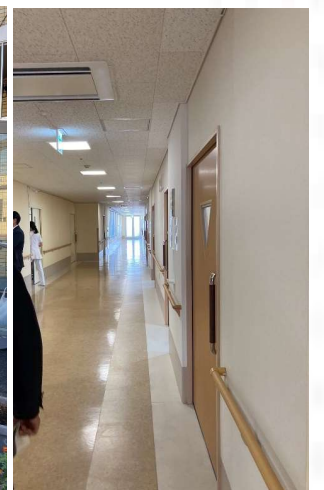
電話:045-912-0111

### 【アクセス】

東急田園都市線「江田駅」より徒歩3分

※駅から近く 通院しやすいし

面会にも来やすい印象を受けた。



訪問当日は、伊澤院長、吉田事務長、櫻井看護部長、篠塚病棟師長、精神保健福祉士の古澤さんに話を聞きました。

お忙しいところありがとうございました。

### 【病棟】

精神科急性期治療病棟 閉鎖病棟

外に面する窓は大きいいため十分な採光がある。バルコニーもあるが患者さんは出ることにはできないとのこと。

屋上テラスでは、菜園を行い、レクリエーションの一環として患者さんが花の植え替えをするイベントもある。

廊下は患者、スタッフが行き交える広さがあり、「退院支援サポート講座」や1週間の献立表、作業療法のスケジュールが掲示されている。

ナースステーションは、病棟のほぼ中央にあり、患者さんが話しやすいようにインターホンが設置されている。

ホール壁に「想いの木」が貼られている。

当初、スタッフが想いを果実の紙に書いて貼る予定だったが、患者さんからも貼りたいとの要望があり、患者さんの想いも貼られている。

デイルームに患者専用の冷蔵庫が設置されている。携帯電話の充電ボックスが設置されている。





## 【病室】

個室、2人部屋、4人部屋に分かれており、多床室ではカーテンで個人スペースが確保されている。

- ・特別室(8,250円) 1室
- ・個室(2,200円～6,600円) 6室
- ・2人部屋(2,200円) 1室
- ・4人部屋(2,200円) 8室

上記の部屋にはそれぞれ洗面台が設置されている。

また、各ベッドサイドには収納家具(デスク付き)があり、プライベートが保たれる工夫がされている。

身体精神面で観察の必要がある患者さんのために観察室が2室設けられている。

すべての職員さんがわかるように、患者さんの情報がピクトグラムで示されている。

(おむつは、「0(オー)」が6つで、おむつ)

部屋の窓はスタッフの管理のもと、開閉できるようになっている。



## 【保護室】

入室期間は短い人で1週間、長い場合1か月以上となっている。

空調あり、(部屋の外にリモコン)、窓もあるがすりガラス状になっている。

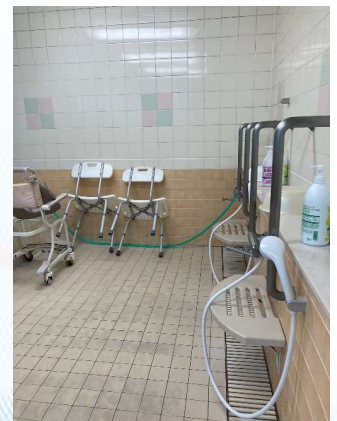
トイレは使用後に便器内を確認後、ステーション内から洗浄する。(義歯紛失防止や、水中毒防止対策のため)

## 【浴室】

シャワーが3つ設けられている大浴室1か所。

窓もあり明るく清潔に保たれている。基本月曜～土曜で週3回の入浴。ただし、病状などにより柔軟に対応されているとのこと。

(現在20名ほど介助を必要としているが、車いすの方も同じ浴室を使用している。脱衣場所に十分なスペースが確保できない時もあり、廊下部分をカーテンで仕切り、脱衣の予備として使用されている。)





## 【公衆電話】

公衆電話は2台(コイン、カード併用)、病棟内の静かに話せる環境のところに設置されている。パーテーションもあり、座って話せるように椅子も置かれている。

電話横には退院請求などの書類が掲示されている。

本人の携帯電話の使用は医師の許可による。

通話は病室での通話は不可、面談室などで電話の使用が認められている。

## 【面会室】

面会室は4つ、病棟内にあるのが特徴的だった。また、個室内であれば病室内での面会も認められている。

広さも明るさも十分だと思われる。面会は、14:00~17:00で、家族4名まで。面会で家族と会うことが大切であるということを考えて上で面会対応している様子。

## 【売店について】

外来横にあり、ジュースやお菓子などが売られている。

入院するために必要な日用品は揃うが、これ以外にもリース契約の方法もある。

患者さんは、ご自身でネットなどで購入し、病院で受け取ることができる。

スマートフォンでのバーコード決済を利用することができる。

## 【外来について】

精神科のみならず、内科、心療内科、消化器内科、循環器内科、糖尿病内科、脳神経内科、整形外科、皮膚科、リハビリテーション科がある。月曜から土曜日まで外来を行っている。

## 【デイケア室】

月曜から土曜日まで、さまざまなプログラムが実施されている。就労に向けた取り組みや、疾病教室も行っている。

## 【ご意見箱について】

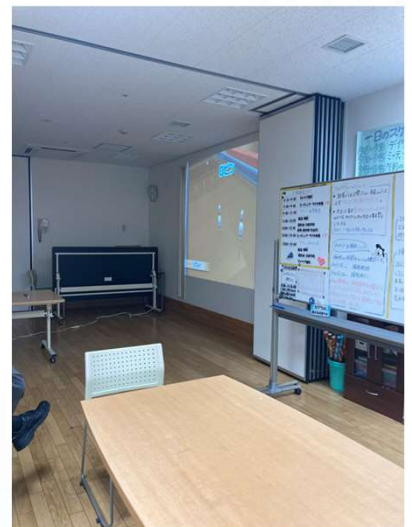
投書箱が設置されている。(公衆電話のところに投書用紙がおかれていた。)

## 【行動制限最小化の取り組み】

週1回、もしくは病状変化した際に、医師、看護師を含む多職種で隔離拘束解除に向けてカンファレンスを実施している。また月1回行動制限最小化委員会を開催し、隔離・拘束者の環境ラウンドやカルテチェックを実施している。

## 【そのほか】

今年度(2023年度)から入院されている方に「クライシスプラン」の導入をしているとのこと。入院中にプランを作成し、退院されてからも外来とも共有し、サポートを続けていくことを目的としており、退院後の支援にも意識が向けられている。



## 【江田記念病院】

訪問当日は院長先生をはじめ吉田事務長、櫻井看護部長、篠塚病棟看護師長、精神保健福祉士の古澤さんに出迎えていただきたいへん恐縮しました。それと同時にわたしたちKPの訪問を受け入れてくださりとてもありがたい気持ちになりました。

病棟を見させていただき印象に残ったことのひとつに電話に対する対応があります。ここでは個人の携帯電話で通話をする際に、面談室を使用できるようにしていたり、充電ボックスが設置されていました。入院生活で外部の方とどうつながりを持てるかはとても重要だと思っているのですが、電話をかけたいと思った時にプライベートが守られる環境が確保されているのはいいなと感じました。

それと、「想いの木」（メッセージボード）です。患者さん、スタッフの方それぞれの想いを感じることができてほんわかした気持ちになりました。お見舞いの生花が認められなくなり殺風景な病棟が多くなっているなかで、病棟にいろどりがあふれることは大切だなと感じました。また、患者さんの情報をあらかずピクトグラムにスタッフの方の遊びごろを感じました。

ひとつ残念なことは、屋上バルコニーがあるにも関わらず、施錠されているため普段使うことができないことです。だれでも一日を過ごす中で、一人でぼーっとしたり、お花を眺めたり、外の空気を吸ったりすることは大切だろうと思うので、せっかくのスペースをぜひ有効に使ってもらえたらと思いました。

(中島ひとみ、矢ヶ崎洋恵)

一般に精神科病院は、駅からバスで何十分という人里離れた立地が多く、今の日本の精神科医療の社会的な位置付けを物語っているが、ここは東急田園都市線の江田駅から徒歩5分程度の距離にある。こうした駅近の病院がこれまでの精神科病院に対するイメージを払拭する力になってもらえたらと思う。

事前に江田病院のホームページを見ると、精神科の医師の名前や専門分野などの一覧のほか、病院の診療実績として入院患者数や年代別構成、平均在院日数などが掲載されていた。いずれもごく簡単な内容ではあるが、この程度の情報でも他の精神科病院のホームページではほとんど見たことがなく、情報開示への姿勢は前向きという印象を受けた。翻って一般的な精神科病院のホームページにおける情報提供はあまりにもお粗末である。

この病院のもう一つの特徴は、精神科以外に消化器や循環器内科、整形外科、リハビリテーション科など、総合病院とまでは行かないが、身体系の診療科目がバラエティに富んでおり、精神と身体の合併症にかなり対応できることである。実際に入院患者の高齢化に伴って、合併症の患者が増えているとのことだった。

2022年から病棟の構成を変え、精神科の一部だった認知症病棟をなくして、幅広く重度の肢体不自由や意識障害に対応する障害者病棟に転換し、精神科は精神科急性期治療病棟に一本化した。病院長の話では、イタリアでは認知症は入院させないことを原則にしているという話を聞いたことが病棟転換の一つのきっかけだったということで、こうした諸外国の取り組みを積極的に参考にしていく姿勢はいいことだと思った。

この病院では最近、「クライシスプラン」を取り入れ始めているとのことだ。クライシスプランとは、症状の変化で問題行動を起こしそうになった時などに、自分自身や支援者がどう対応するかをあらかじめ決めておいて、退院後の生活の支援材料にしようというもの。江田病院では今後、多くの患者に広げていきたいとのこと、その成果に注目したい。

(稲川洋)



## 【⑥富士見台病院】

### 【基本情報】

医療法人社団清風会 富士見台病院

〒259-1205

神奈川県平塚市土屋1645

電話:0463-58-0186

### 【アクセス】

JR東海道線「平塚駅」北口からバスで約30分

1時間に1本送迎用マイクロバスあり。

(所要時間30分)



### 【病棟】

西棟:3階建て。1階は急性期病棟、2階は精神一般病棟、3階は精神療養病棟。平成30年に新設された。建物が新しく、清潔感がある。廊下の幅やデイルームも十分な広さ。

中央棟:3階建て。2階と3階が精神療養病棟(長期入院者)

南棟:4階建て。3階と4階が精神一般病棟(慢性期)

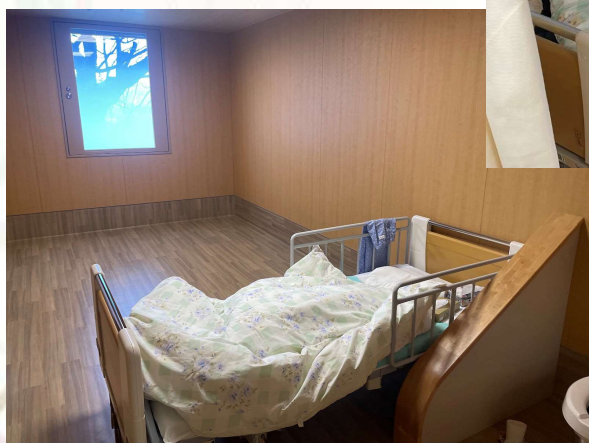
### 【病室】

1病室にベッドが4床で十分な広さがある。

西棟の病室はカーテンで仕切りがされているが、中央棟と南棟の病室には仕切りがない。荷物の置き場所も十分にある。西棟よりはやや狭いが南棟と中央棟も4床で十分なスペースがある。

### 【保護室】

各病棟にある。床と壁がけがをしづらいような材質でつくられている。大きな窓があり明るく、良い景色が見える。ベッドをもう一つ置けるくらいスペースに余裕がある。





## 【治療について】

治療抵抗性統合失調症への治療として有効性が証明されているクロザピン(商品名:クロザリル)による治療を行っている。合う人には効果が高い。

## 【公衆電話】

各階にある。24時間使用可能。電話が置いてあるスペースと自分の携帯電話で電話をするためのスペースがある。時間制限や監視はない。電話の横には外部の相談できる機関の紙が貼ってある。

## 【郵便】

基本的に制限はなし。発送も受取もできる。

## 【ご意見箱】

ご意見箱が各階に1か所設置されている。

## 【面会室】

各階に1部屋2組分。2023年12月時点ではコロナ禍の影響でタブレットによる面会のみ可能。

## 【作業療法(OT)】

編み物やものづくりなどを行っている。そのほかにもスポーツや音楽鑑賞、カラオケの日などもある。

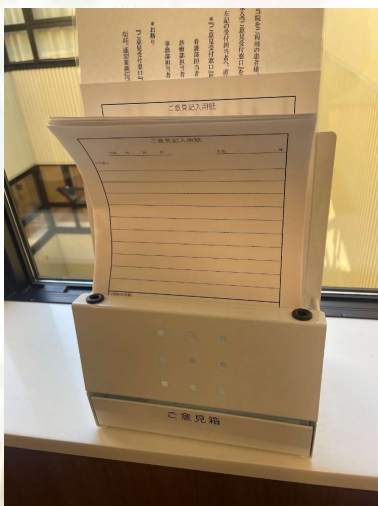
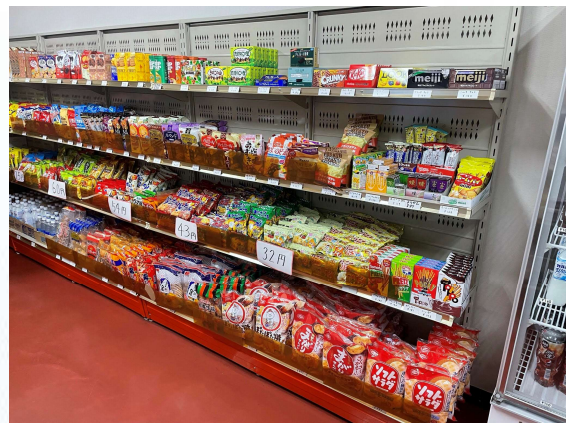
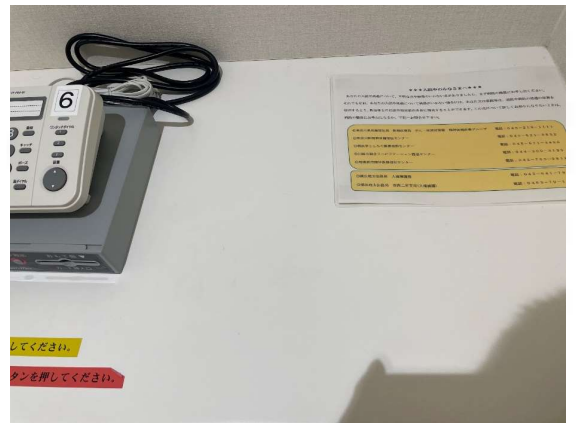
作業療法室の他に体育館のようなレクリエーションホールがある。

## 【外来】

受付時間9:00～17:00(土曜9:00～12:00)

1日平均50～60名。

予約してない方や時間外の急患にも対応している。





## 【家族会】

平塚の家族会に参加している。

## 【行動制限最小化の取り組み】

2週に1回委員会を開催。

低床ベッドやセンサーマットを使用して行動制限最小化に努めている。

入浴では機械浴を活用して自力で入浴できない方へのサポートをしている。

## 【その他】

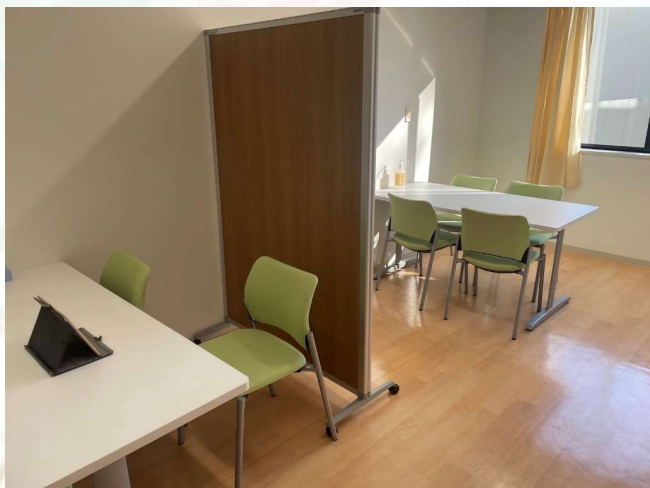
◇退院支援、地域移行の取り組みに力をいれている。退院前訪問では看護師、作業療法士、精神保健福祉士などが自宅や近隣へ訪れている。家族やサービスの問題で条件がそろって退院できることが少ない中でヘルパーや保健所、近隣の人々との話し合いを丁寧に行っている。

◇お金の管理や携帯電話の制限などは比較的緩い。普段通りの生活をするのもリハビリという考え方だそう。

◇庭に公園をつくっていて桜の木を植える予定。

◇良い医療を提供するために、看護師が365日勉強できるためのeラーニングシステムがある。

◇富士フィルムの一包化監査支援システム(PROOFIT 1D II)という薬剤の飲み忘れや飲み間違いを防止し、薬剤師の監査業務を支援するシステムを導入している。薬剤師の一包化監査業務を見やすくより安全に効率化することで患者の安心を支えている。このシステムを導入している病院はまだ少ない。



## 【富士見台病院】

富士見台病院は、直前に訪れた江田病院（駅から徒歩5分）とは対照的で、東海道線の平塚駅から病院のマイクロバスで30分ほどかかる。ただ、駅から遠いことの裏返しとして敷地が広い。現在、敷地内に公園を整備しているとのこと。建物の中も、新しい病棟は病室や廊下が一見無駄ではないかと思えるほど広い。ただ、建て替えの済んでない病棟もまだ残っており、こちらは広さや機能性の面で古さを感じさせることは否めない。

ホームページを見ると「クロザピン相談外来」を設けるなど、クロザピンによる治療に力を入れている。クロザピンは「治療抵抗性」と言われる統合失調症の治療に有効と言われ、少し前までは大きな大学病院などでしか投与できなかったが、最近は地域の中核病院にも広がってきた。ただ、誰にでも効く魔法の薬という訳ではなく、服用には慎重な検討が必要のようだ。

この病院の630調査の結果を見て気になったのは、拘束率（全入院患者のうち拘束されている患者の割合）の高さだ。ここ3年間の推移は、ほぼ10%を超えており、神奈川県平均の約8%、全国平均の約4%を上回っている。この点を病院側に質問したところ、比較的重い症状の患者さんも受け入れているため、ベッドから転落したり、経管栄養のチューブを抜いたり、自傷を企図したりすることを防ぐためには、どうしても拘束をなくす訳にはいかないとのことだった。症状が重い患者さんに対する拘束をどう減らすか、要員を増やしてより緊密なケアができるような体制を作るしか解決策はないのかも知れない。

外部との通信について、この病院では原則として携帯電話やスマホの使用を認めている。相部屋での会話やネット通販の利用などは禁止しているが、通販などは完全には禁止できないとのことだった。SNSなどへの投稿のリスクはないのか聞いたところ、今の世の中でネット利用のリスクを完全になくすことはできないとのこと、患者の通信の自由を保証するためには、それくらいの腹の括り方も必要かなと感じた。

（稲川洋）

病院訪問を通じて、「良い医療を提供するために」様々な工夫と努力をしているという点が印象的であった。

特に印象的だったのは他の病院では受け入れていない患者を受け入れているということである。もし富士見台病院で受け入れなければ行く場所がなくなってしまう人いると考えると大事な役割を担っているのだと感じた。低床ベッドやセンサーマットなどを取り入れることで行動制限最小化にも取り組んでおり良い医療を提供するための努力を感じた。

もう一点印象に残ったこととして地域移行の取り組みについてである。本人が退院できる状態であっても周囲の環境がすべて整って退院できることは少ないということであった。そのため、何度も看護師や作業療法士の方が自宅や近隣の住民や保健所との話し合いを重ね、少しでも条件を整えて退院できるように整備をしているというお話であった。

電話も自由にできて携帯電話の使用も大きな制限はない。あれもこれもダメと制限するよりは許可できるものは許可して普段に近い生活をしてもらうこともリハビリの一環とのことであった。

そのほかにも他の病院ではあまり取り入れられていない薬剤監査システムを導入するなど良い医療を提供するために多くのことに取り組んでいると感じた。今回の病院訪問を通じて、良い病院にするにはどうしたら良いか、退院した方が地域で安心して暮らせるにはどうしたら良いかの2点について改めて考えさせられた。

（齋藤奨）



## 【（参考） 新生会病院】

### 【基本情報】

医療法人和気会 新生会病院

〒594-1154

大阪府和泉市松尾寺町113

電話:0725-53-1222



### 【アクセス】

和泉中央駅から送迎バス「新生会病院」下車（約7分）

### 【病棟】

アルコール依存症専門治療病院

精神科急性期治療病棟1 102床

精神一般病棟46床（女性専用病棟 14床 含む）

### 【病室】

十分な広さであるがカーテンなどによる仕切りはない。監査で仕切りがない点について指摘はされているが、患者同士、仲間同士の会話や交流を大事にするために意図的に仕切りをしていない。

### 【保護室】

床に布団が置かれている。大きな窓があり明るい。

大きな窓からは、庭が見えるようになっている。監視カメラは天井に設置されているが、トイレは見えない位置にある。





## 【面会室】

面会室はあるが基本的に病院への出入りは誰でも可能。

## 【売店】

時間限定の売店がある。ただ近隣のコンビニエンスストアに行くことができるため、時間限定としているとのこと。



## 【作業療法(OT)】

見学することはできなかったが、ウエイトルームがある。2階には広い畳の部屋があり、読書や音楽鑑賞、創作活動や料理、ランニングやトレーニングなど、本人がやりたいこと、好きなことが見つかるよう、多種多様なプログラムが用意されている。

※寝たきり防止のために入院中の患者に歩くことを推奨している。寝たきり防止のために必要な1日最低歩数は2000歩！！

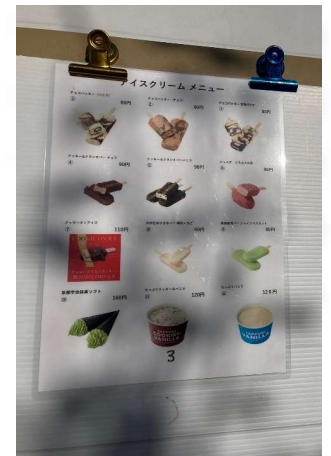
歩数	歩数単位	平均で各病室
2000歩	10分	東1病室
4000歩	5分	2病室
6000歩	7.5分	英文部、器の棟、診療室、心療部、脳卒中
8000歩	10分	がん、脳神経科
10000歩	15分	療養室、少少症、母体
12000歩	20分	聖隷病院、病棟の地下
14000歩	25分	看護部、検査科、脳神経科、脳神経外科、脳神経内科
16000歩	30分	看護部(患者乗降動線)、東1病室
18000歩	35分	多目的活動室(10分間)
20000歩	40分	聖隷

12000歩(15分)未満(歩数が40分)以上の運動は、健康を害すこととす。



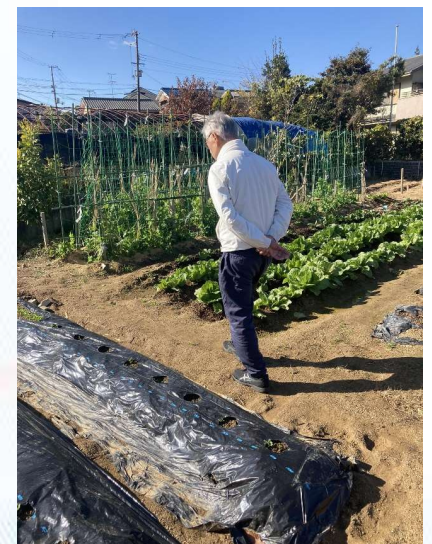
## 【キッチンカー】

エントランス前にキッチンカーで珈琲などが販売されている。就労継続支援B型事業所あんず工房による営業販売が週に4日ある。



## 【農園】

病棟の建物の奥側に農園がある。この農園をつくることによって新生会病院は完成したと先生談。



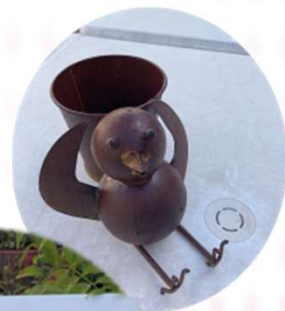
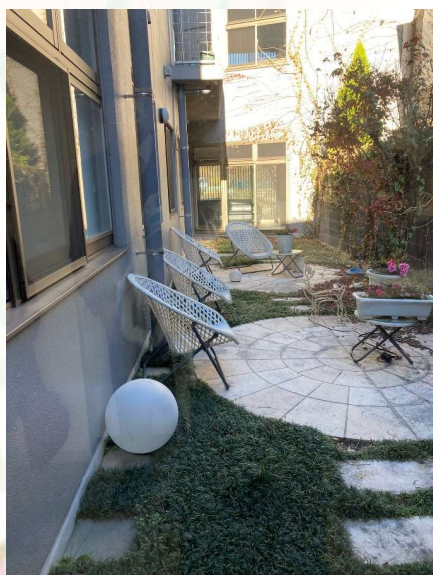


## 【その他】

◇中庭や屋上など外に出れる場所がたくさんあり、それぞれの場所に立派な椅子と机が置いてある。緑や花が多く心安らぐ場所が病院内に多くある。

◇日中に病室にいる患者は非常に少なく、外へ出て仲間と過ごしている人が多い。

◇外出は基本的に自由。出ていくよりも入院していた方が快適な生活を送れるため心配はない。





## 【新生会病院】

関西方面大阪の地へは、KP設立の翌年に京都の高木俊介先生に何名かと訪問し、そのついでに大阪精神医療人権センターに研修と交わりでお邪魔して以来かと記憶している。大阪と言えど広し、南部域和泉中央へ我々KPの面々で出向いた。病院到着後、病院玄関脇のカフェ（病院関連の事業所の運営）で茶菓を交えて先生と暖かい陽射しの中歓談、早速先生運転で病院を案内していただいた。先ず、裏の畑を見学、農地にはいろいろな野菜などの苗が植わっていた。（ダイコン、小松菜、長ねぎ他ブドウなどの果実の木等々）私がかつて入院していた病院での院内作業の時に懐かしく思い起こしながら、院内作業を通じて患者さんのケアにあたる先生の治療のあり方を鑑みた。

さて、その後病院の周りの敷地を歩きながら緑に囲まれた中に患者さんの自然との関わりで治療とリハビリを進めて行く療養のスタンスを先生の案内から学び取った。

昼は、病院の食事（入院患者と同じメニュー）を職員の食堂でしながら休息。因みに、精神科病院での食事メニューは、私が退院した2005年2月以来で昔を回想しつつの一時であった。

そして午後からは、いよいよ病棟内の見学へ。それぞれの病棟の見学で感じたことは、ほとんどの患者さんが自由に外に出ることができることが大前提であること。また、病室内には、カーテンがないという空間であること。カーテンのない理由は、プライバシーよりもないことによる閉塞感を取り除くことによるより開放的な治療を目指す先生の治療ポリシーが伺えた。そして、入院生活による運動不足の解消のため、入院患者さんに歩くことを推奨している点は、大変驚きと感銘を受けた。

後、先生との会話で一昔の精神科治療の"アル中分裂"の話が私が質問し、その答えから現精神科治療のあり方がだいぶ変わったことを認識させられた。

最後に、私なりに今回の訪問で感じ思ったことを述べたい。

花と緑に囲まれた中での精神科医療と入院患者の治療を閉塞感のない中で進める形、そして、退院へ向けて患者さん一人一人に真摯に向き合うという方法に今後の精神科医療と退院後の精神保健福祉の先に見える希望を感じ、私もKPでの活動へ向けて大きな影響と今後の活動の課題を整理しながら考えていきたいと気持ちを新たにした次第である。

（藤井哲也）



### 「環境と調整」

和氣先生が何より大切にしている、キーワードで、それは病院のそこかしこで感じる事ができた。季節の花と木、広々とした畑、小鳥やメダカ、圧迫感のない病室、野菜が豊富な手作りの食事、出入り自由なグラウンド、その上喫煙所まで完備してあった。窓の外はどこからでも緑が見えた。そして何より和氣先生の人柄が感じられた。

先生を見つけた患者さんは、「大先生」と呼び、話しかけに来て、最後に握手を求めてくる。患者さんは、一人や二人ではなく、何人もいた。短い会話の中にも温かさを感じる場面だった。積み重ねてきたことが、しっかりと形になっていると強く感じた。

「環境と調整」が調和している素敵な病院だった。（村上裕子）



## 【新生会病院】

天気も良く温かい日差しの中、庭にあるカフェで和氣先生のお話を聴きながらコーヒーを頂いた。椅子に座るとお花や緑の木々が目に入り癒される。目の前を入院患者が通り声をかけ合う姿は開かれている病院と思う。カフェや給食など近くの事業所に仕事を依頼しているとの事。地域で運営に参加して活性化し貢献をしていると感じる。和氣先生は病院職員に大先生と呼ばれる。診察して入院病棟に行く渡り廊下から緑と花が見える中庭がある。入院に不安がある患者がこの中庭を見るとホッとすると聞き大事な気配りと感じる。

先生のご自慢のカートに乗り畑まで行く。急な坂があり先生の運転を信じ乗車。日当たりのよい畑には白菜、ネギ、オリーブなど色々な種類が栽培されている。休憩場所にはパラソルに椅子とテーブルが置かれ疲れを癒やされる工夫がされていた。

最近増設された女性病棟は個室でとても綺麗でインテリアが凝っていて病院とは思えない環境。お風呂は入りたい時いつでも入れる、パウダールームがあり、入院中も女性としての楽しみを忘れない事は大切な事と思う。

病院の食堂で先生と一緒に頂く。職員の方と一緒に先生は気楽に食事をなさっている姿は心がほっくりした。

アルコール依存症は孤独な病で自由を奪う。一人では治療が出来ないので仲間を作り一人ではないことを知るにはどうするか？先生は規則を作らず、外に出る機会を沢山作られている。一日2000歩を目標にグラウンドにコースがある、ゲートボールもできる。身体が動かしたくなる工夫が沢山ある。治す薬は無いのだから環境が大事と痛感する。病院には独特の病院の匂いが無かった。緑、花、土、病棟には絵がある。このような自然なものが匂いを無くし患者の心を癒してくれるのだろう。先生は退院する時に患者さんと面談をなさる。その時患者さんが「今まで笑った記憶がない。ここに来て笑うことができた。」と話したそうだ。「これがすごいことなのですよ。健康になった証拠なのですよ。」と笑ってお話しして頂いたのがとても印象的だった。和氣先生のユーモアとお気遣いで貴重な時間を過ごす事ができたことに感謝です。長い時間をかけ丁寧に説明をして頂き、私達の質問にも沢山答えて頂き色々と学ぶこと事が出来ました。これからの支援に役立てていけたらと思います。

(島中祐子)

三寒四温の穏やかなまだ浅い春の陽気の中、花に囲まれた関連する就労支援継続事業所が運営するキッチンカーで病院創設者の和氣隆三先生は迎えてくださった。先生にお会いしてすぐに多くの患者様やご家族から笑顔で「大先生(おおせんせい)」と声をかけられ、それ以上の笑顔で握手しながら対応している先生の姿がその全てを物語っていた。スタッフの反応からもそのお人柄が想像できた。

ご案内いただきながら、理想の病院を目指して作ってきたんだ、やっと完成したんだと感慨深く説明して下さったのが強く印象に残っている。

精神科病院には医療、生活、環境の3つが必要なんだ、との考えで、入院する際に外来から病棟に向かう通路の窓から見える緑と花いっぱいの中庭、改修した保護室、病棟から中庭につながる開放的な出入り階段、院内に植物(緑と花、広い中庭、覆い茂る木々、そして畑)を創設時から模索しながら作ってきた、つまりはこの3つの環境をつなげてこられたのだと思う。経営的なご苦労の一端もお聴きした。

やはり、この病院に至るまでには何十年もの日々の積み重ねがあったことを知り、神奈川精神医療人権センターを支援する理由として、「本当は自分が直接関わりたい、で年齢的にそれができない、同じ思いをもつ活動を支援することしかできないんだ」との言葉と重なった。

開拓者の思いは簡単に一日にして完成することはないことを思い知らされた、とともにいっぱいの勇気をいただいた訪問だった。

(奥原孝幸)

## 【座談会】

～訪問してみてもうだった・・・～

### 【参加者】

池畑美穂、稲川洋、岩澤美津子、奥原孝幸、齋藤奨、三瓶芙美、島中祐子、中島ひとみ、中森菜穂、広瀬隆士、藤井哲也、三輪明広、矢ヶ崎洋恵

630調査の数字ではわからないことが、病院訪問では少しづつみえてきた。

精神科病院にはじめて見学した。行ってみたいとわからないことがある。拘束率が高い理由も それについて取り組んでいることも！！

広々としていて清潔だった。

精神科病院で働いていたが、実際に見学すると「世間ずれ」していることや一般科との差も感じた。

病院はきれいだったか、実は問題が内包されているのかなとも思った。

見学に応じてもらえるのは貴重で、病院側も「外の風を入れないと！」という機運が生まれてきているのではないかな。

自分が入院していた時とはだいぶ変わった。地域の人と一緒に精神科医療がよくなるというなと思った。

インターネットの情報ではわからないものがある..。またインターネットの情報はとても少ないことを感じた..。

古くて、臭くて、薄暗いというイメージは払しょくされた。

「自分自身、入院が必要になったら・・・。」という視点を大切にしながら見学した。

積極的に見てほしい！という雰囲気を感じた。



～こうだったらいいのになあ～

患者さんが、みんな病衣を着ている病院があつて気になった・・・  
何事も、自分で選べる  
ことが大切だと思った。

市施設はきれいになって居心地はいいがやっぱり収容主義だと痛感した。変えていきたい。

閉じ込めて治療する場ではなく、生活の場になりたい。

携帯電話の制限がないのがいい。日常の当たり前のことが保障されているのが大事だと思う。

病院がもっとオープンになって、談話室などで地域の人と交流ができるようになったらいいな。

入浴の自由も大切だな・・・  
わたしなら毎日入りたい。



やっぱり拘束されたくない。

ボランティアの受け入れもしてほしい。



自由というのは、人権の尊重につながっていると思う。病院内が、地域生活に近い形になったらいいのになあ。

好きなものを食べたい!!!人として重要なこと  
あとと思う。

スタッフの方と患者さんがどれだけ対話ができているかが・・・が大切だと思う。

面会の自由も認めてほしい。  
家族だけでなく友人や大切な人と会いたい。

関係性やコミュニケーションが高い病院がいい。

もっともっと、地域移行に力をいれていけたらと思う。  
地域に開かれた形にしたい。

病院内で自然や四季をもっと感じられるといいなあ。



～これから。～

だれもがいつ入院するかわからない・・・自分事として考えたい。

施設はきれいになってきた・・・これからは、選ばれるためにはどうしたらという視点もかんがえていきたい。

病気でなく、その人の身体、人格、家族など全体を見てほしい。

退院先が「家族」になりがちだが、家族の負担を小さくできるように「家族」以外の選択も増えるといい。

ちいき側がもっと柔軟に人にやさしくということが必要だと思う。

治療するということは、その人の尊厳を回復する過程に寄り添うことなのではないか。病院には、その認識を大事にしてほしい。

地域とつなげる役割はKPも一緒に担っていきたい。「入院」と「退院」の壁を小さくしていきたい。

オープンダイアログや当事者研究などにも注目していきたい。

今回、病院訪問を受け入れてくれた病院さんに感謝。。来年はもっと見学ができたらと思う。

「安心してかかれる精神医療」をつくっていくこと。KPとして何ができるのか。みんなで一緒に考えていきたい。



## 【おわりに】

ようやく「さいしょの一步」を踏み出したKPによる精神科病院訪問活動。たくさんのピアや市民ボランティアがご協力してくださりました。誠にありがとうございました。

わたしたちKPは、630調査の数字的な結果や各病院のホームページだけでは分からないこと、実際の病院内の雰囲気、病院を利用する患者さんや家族が知りたいことが、市民にも分かりやすく公開され、医療関係者と地域関係者や市民みんなで意見交換していくことで、「誰もが安心してかかれる精神医療」を一緒につくっていくきっかけになればと考え、今後も活動を続けてまいります。

2024年度も、病院訪問について、神奈川県内の精神科病院の皆さまへアンケートを実施させていただきます。

(KP事務局一同)

### <ご寄付のお願い>

KPでは、寄付によるご支援も承っております。ご支援いただいた寄付は、KPが継続的に活動するための資金として大切に使用させていただきます。

また、当法人は、認定NPO法人の指定を受けております。寄付金について、税制上の優遇措置（寄付金控除等の所得税の控除）を受けることができます。

(振込先) 横浜銀行 杉田支店 普通 1530250  
特定非営利活動法人さざなみ会

### <ボランティア募集！>

わたしたちKPの仲間たちと一緒に、ボランティアとして活動してみませんか？  
KPでは、電話相談、面会活動、精神科病院訪問活動、出版物発送作業、講演会のお手伝いなど、ボランティアとして活動をお手伝いくださる方を募集しています。

まずはKP事務局までメール・お電話にてお問い合わせください。

かながわ精神科病院訪問記 VOL:1 (2023年度)

**いって・みて・きいてきた**

～精神科病院を見学してきた～

発行：KP神奈川精神医療人権センター

編集：三瓶芙美、矢ヶ崎洋恵

発行日：2024年3月

発行者：認定NPO法人さざなみ会

KP神奈川精神医療人権センター

〒235-0023神奈川県横浜市磯子区3-14-3

TEL:045-353-5711

MAIL:kp.kanagawapeer@gmail.com



KPを応援してくださるみなさまに感謝を込めて。  
いつもありがとうございます。  
これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

認定NPO法人さざなみ会

## KP神奈川精神医療人権センター

相談電話：080-7295-8236（平日13：00～16：00）

MAIL：kp.kanagawapeer@gmail.com

ホームページ：<https://kanagawa-peer.com/>

※日々の活動を投稿しています。

